

## 出水市役所新庁舎視察の振り返りのまとめ

出水市役所新庁舎視察の感想や意見等について、第4回検討委員会の資料1を基に意見集約し、以下にまとめます。

### 1 基本構想や設計について

#### (1) 事業全体に関すること

- 平成22年12月の新庁舎建設検討委員会設置から建設事業費予算可決まで約4年、駐車場整備事業完了まで約7年という長期間の計画である。
- 十分に検討された基本構想と、これを実現化するように設計が工夫されていた。
- 建設場所（位置）決定の経緯や分庁方式から本庁方式に決定した時の経緯（特に高尾野・野田地区の意見）等はどのようなものか調査したい。
- 議会棟の建設については、議会の意見がかなり反映されていると思われるが、他の行政棟について、どの時点でどのように市民の意見等が反映されたか調査したい。

#### (2) 基本構想に関すること

- 始良市複合新庁舎建設検討委員会の委員の一員として責任の重さを再認識した。
- イニシャルコストと併せて、ランニングコストを圧縮することは将来の財政規模を考慮すると特に重要であり、この点が考慮されていた。
- 出水市新庁舎の基本構想には、他の支所庁舎の構想はあまり明確に書かれていない。
- 防災拠点施設として、インフラ停止時の備えが確保されている。始良市でも、非常時の安全性を保ちながら機能の早期回復が可能な庁舎となるよう「事業継続計画（BCP）を盛り込む」ことを明示したい。

#### (3) 基本設計に関すること

- 大空間を確保して、将来のレイアウト変更に対応できる設計である。
- 行政棟・議会棟・付属棟と駐車場の配置が明確で、来庁者の利便性に配慮した設計である。
- 出水市所有の材木を随所に活用するなど「市民が身近に親しみを感じる庁舎づくり」の構想が具現化された設計である。内装や家具の木質化により、木の温もり、湿度の調整、香りなど、心や身体にも配慮されている。
- プレストレストコンクリート造、RC造縦フィンやLED照明など具体的な検討も加えたい。
- 基本設計の提案はプロポーザル方式で決定しているが、その審査委員会の開催

状況や審議内容については、当然ながらオープンにすべきである。

○経済性に配慮した庁舎、100 年建築を目指すロングライフ庁舎とする方針が、建物の随所にみられた。

## 2 機能面について

### (1) 市民サービス

○市民が休日や時間外にも利用できる ATM が設置されていたら便利である。

○広々とした 1 階ホール等により、憩いの場を提供する。

○多目的ホールはいつでも開放できる計画で、休日や時間外利用を考慮して行政スペースと完全に遮断できる造りが良い。

### (2) ユニバーサルデザイン

○廊下幅が広く、車椅子・ベビーカーの方々も不便を感じることはない動線計画。

○庁舎裏側出入口のバリアフリーには段差があり課題が残る。

○障がいのある方（成人）や高齢者への配慮が重要である。

### (3) 窓口・執務空間計画

○明るく開放感のある窓口フロアで、ワンストップサービスに取り組んでいる。

○執務スペースが広く、快適で職務に専念できる執務空間である。

○窓口、執務空間が、オープンスペースで計画されており、将来の機構改革や定員の変更等に柔軟に対応できるように工夫されている。

### (4) サイン計画

○イラストを効果的に用い、数字の大きさや配色もカラフルで、カウンターが流線型になっており、視認性が高い。デザイン性だけではなく機能的である。

○窓口サインが、従来の「課」単位の表示でなく、「発行書類名」等に表示されており、初めての来庁者や高齢者にとって、目的の窓口が認識しやすいサイン計画である。

### (5) プライバシーへの配慮

○カウンターには、プライバシーを保護する仕切りがある。

○プライバシーを重視した相談室（個室）には、非常ベルや出入口 2 か所の設置により、職員の安全性にも配慮されている。

### (6) 職場環境

○職員の食事場所、休憩場所等が必要ではないか。

○今後、課の枠を超えて共同で事業に取り組むケースを考慮し、同一フロアにある課間の連絡・調整、横の連携が図りやすい環境づくりのためにも、各階に小会議室が必要ではないか。

○現場を多く抱える部署が 2 階に配置されていたが、機能性の高い配置といえるか。

### (7) 自然エネルギーの利活用

○西日対策や雨天時の通風が可能な深い庇、自然光の取り入れ方や地下水の利用など、自然エネルギーの有効活用と環境への配慮が随所にみられた。

### (8) 駐車場

○駐車場に関する問題は、始良市でも十分に検討する必要がある。

### (9) 設備等

○床冷房（床吹き出し方式）

## 3 免震構造について

○大地震時に、庁舎内の什器の転倒や散乱がなく、天井の落下や内装の破損が少なく、即座に災害対策拠点としての機能を開始できるのが、免震構造のメリットである。

○鹿児島県の地震災害シミュレーションによると始良市では震度6弱が想定されており、多少単価が上昇しても、免震構造の採用が望ましい。

○免震ゴムの経年変化や東日本大震災や熊本地震時の検証結果など、免震技術の信頼性について慎重に検討する必要がある。

○外観は「建物全体に威圧感がなく、スリムで優しく親しみやすい」と感じた。

○免震層（地下室）の湧水・浸水・排水対策が必要である。

○過去の実例やデータ、コスト面まで協議し免震構造を採用した経緯がみえた。

○始良市の地理的要件（火山災害）を特に考慮し、どのような工法・構造が適しているか、専門家を交えて考慮すべきである。

○免震構造のメンテナンスや修繕計画まで考慮した構造にすべき。例えば、メンテナンス用の出入口を複数設けるなど。

○耐震グレードⅠ類に設定し、大地震が発生しても防災拠点として機能する庁舎である。

○免震構造とバリアフリーの課題がある。

## 4 その他自由意見

### (1) 事務所設置方式・事務所の位置

○分庁方式か、総合支所方式かについて何ら議論になった様子はない。アンケートによる意見収集もされなかったようだ。

○合併協定書「新市の事務所の位置は出水市でより高尾野町に近いところとし、具体的な建設場所は、新市において検討する。」について、検討委員会における議論の内容を知りたい。

## (2) 窓口カウンター

○各手続きカウンターが見えすぎる。相談カウンターにプライバシー保護の為にすりガラス等で仕切りを考えてはどうか。

## (3) 景観・デザイン

○出水市全体の緑の借景によくマッチした景観の美しい庁舎。

○始良市の新庁舎も景観を重視し、緑豊かで周囲の市民にも来庁者にも潤いと安らぎが感じられるものであってほしい。

○駐車場側のメインエントランスを中心に、鶴が羽根を拡げて市民を迎え入れるような配置計画であり好印象。

○庁舎へ入るとスギ、ヒノキのデザインと香りが心地よい。

○仕切りのない空間設計により風通しが良く開放感がある。

## (4) 駐車場

○職員駐車場は1 kmくらい離れたところにあり、市民ファーストの精神を感じた。

○公用車駐車場を立体駐車場の原則屋根付きにしている点や、2階からの出入り可能にしている点など参考にしたい。

## (5) 自然エネルギー・環境配慮

○出水市の豊かな自然を最大限に生かした環境負荷の少ない庁舎。

○市有林の利用だけでなく、地下水や日射量等、出水市の資源を有効に利用した設計がされていた。

## (6) 耐震性能

○非常時の安全性を保ちながら機能の早期回復に配慮している庁舎。

## (7) その他

○市役所を利用する出水市民のみなさんの利便性や感想を聞いてみたい。

○合併後の新庁舎建設という難題に対して、基本構想から積み重ね、大きな課題も乗り越えた結果、将来を見据えた新庁舎を完成させたことに勇気をもらった。

○市民にやさしく、次世代に自信を持って残せる庁舎を建設するという強い思いで課題を克服していきたい。

○公用車の多さに驚いた。市民、職員、すべての人にとって使いやすい駐車場の計画を。

○新庁舎は気持ち良い、心地良い印象を受けた。